

要 約

- (1) 藻場の季節的变化を把握するため定点で海藻の生育範囲と密度を調べた。生育範囲の今年度の年間変動は少なく全体平均は 90,152 m^2 で、保護水面に占める割合は 13.3% である。なお密度は夏季高くなる傾向がみられた。
- (2) 1987年8月24日と12月1日に底生動物調査を行い線虫類、定在目、および遊在目が多く出現した。
- (3) 1987年5月1日から1988年1月7日まで隔月1回葉上動物調査をして遊在目と端脚目は周年みられ、また長尾類とクマ目もしばしばみられた。
- (4) アイゴ類幼魚の藻場への来遊を前年度と同様に調査し、今年度のシモフリアイゴの来遊は2群、アマアイゴは3群、ハナアイゴは2群、およびブチアイゴは1群に分かれている事が推測された。
- (5) 昭和62年1月から12月までの名蔵湾における定置網漁獲量調査を行ない年間漁獲量は約19トン、主要漁獲物はコノシロ類、サヨリ類、カマス類、ヒメジ類、ハタ類、メジナ類、クロサギ類、ミナミクロダイ、フエフキダイ類、フエダイ類、コショウダイ類、アジ類、ベラ類、アイゴ類、ハリセンボン類、およびイカ・タコ類で、年間漁獲物の約30%をアイゴ類が占める。
- (6) 1987年8月4日に人工礁調査を行い約16種類、200個体の魚類等が増集しており、ヨスジフエダイ、ロクセンフエダイ、アジ類(幼魚)、ミツボシクロズメ、およびツバメウオ等が比較的多くみられた。
- (7) 1987年4月20日、8月5日、および12月11日に水温、PH、比重、DO、COD、 PO_4 -P、 NH_4 -N、 NO_2 -N、および NO_3 -N量を調査した。結果は前年度とほぼ同じである。

参考文献

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 具志堅宗弘 | 1973: 原色 沖縄の魚、pp. 251. |
| 日本魚類学会 | 1981: 日本産 魚名大辞典. |
| 日本気象協会 | 1981: 海洋観測指針、pp. 429. |
| 日本水産資源保護協会 | 1980: 新編 水質汚濁調査指針、pp. 552. |
| 沖縄県水産試験場八重山支場 | 1983: 昭和57年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 51. |
| | 1985: 昭和59年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 55. |
| | 1986: 昭和60年度保護水面管理事業調査報告書、pp. 46. |
| | 1987: 昭和61年度名蔵湾保護水面管理事業調査報告書、pp. 29. |
| 東海大学海洋学部 | 1980: 魚類図鑑、pp. 379. |

調査担当者 杉山 昭博
呉屋 秀夫
広谷 育子
平手 康市